

科目名	デザイン特論
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（前半クォーター）
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	板垣順平、◎小松佳代子、斎藤和彦、佐藤淳哉、長瀬公彦、中村和宏、森本康平
授業の概要及びテーマ	<p>本授業は修士課程での造形研究領域・ものづくり実践領域・サービスデザイン領域等に取り組む出発点または経過点として、横断的な視点や論点からそれぞれが目的とする造形活動をデザイン領域全体から展望し、どのような共有性と志向性により領域間で有効な働きかけが可能か、また社会にどのような提案が可能かを考察・理解する機会と考えます。</p> <p>授業では本大学院での5つの研究領域（イノベーションデザイン、建築・環境デザイン、視覚デザイン、美術・工芸、プロダクトデザイン）から各教員が授業を行い、上記テーマに基づいた主題によって受講者間及び教員と共に理論と実践内容の関係を議論します。また研究リテラシーとして、論文作成の基本も同時に学びます。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 質疑や議論に際して適切な姿勢と語彙を用いることができる。 ● 発表時には内容を的確に把握し、受講者に向け明瞭に発表する姿勢を獲得する。 ● レポートを作成する際に、読む側の容易性に留意した文章作成を心がける意識の獲得 ● 不明な用語は、密接に関係する用語内容を含め必ず調査し、自らの言語として発表する姿勢を獲得する。なお調査して不明なものは不明として開示する姿勢も同様。 ● 事実関係やレポート内容の正当性を常に検証する態度の獲得。 ● 資料やレポート作成における引用・参考文献の開示を適正に行う。 <p>※各授業時に担当教員から授業の達成目標を別途設定する場合があります。</p>
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>※ 1回目はガイダンスも含めた講義となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 01 研究リテラシー・論文研究の進め方 02 イノベーションデザイン1 03 イノベーションデザイン2 04 美術・工芸 05 プロダクトデザイン 06 視覚デザイン 07 建築・環境デザイン 08 まとめ <p>※ 各授業に際しては事前調査、準備等の指示がある場合があります。講義の順番も教員の都合で前後することがあります。詳細はバレット等にて連絡。</p>
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質疑応答の姿勢、発表等での準備及び内容 50% ・ 小論文 50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	・ 各授業にて適宜指示もしくは配付する場合あり
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	イノベーションデザイン特論
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（後半クォーター）
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎板垣順平、森本康平
授業の概要及びテーマ	大量生産・大量消費の時代を経て、人びとの暮らしは目まぐるしく変化し、新たな暮らしの価値創造や問題解決に繋がるイノベーションの創出が求められています。本講義では、アート、まちづくり、ソーシャルビジネス、行政サービスなどにおいて実践されているイノベーションの創出や新しい価値創造を目指した取り組みや事例をとりあげながら、イノベーションの創出原理やデザイン思考などの人間中心デザインについての知見を深めます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な事例からイノベーションの創出や新しい価値創造に必要なマテリアリティを読み解くことができる。 ・ デザイン思考や人間中心デザインの意義について理解できる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	01 オリエンテーション 02 イノベーションの創出原理1（ソーシャルビジネスの視点） 03 イノベーションの創出原理2（デザイン活動の視点） 04 イノベーションの創出原理3（アート活動の視点） 05 イノベーションの創出原理4（地域づくりの視点） 06 イノベーションの創出原理5（ものづくりの視点） 07 イノベーションの創出原理6（行政サービスの視点） 08 まとめ
成績評価基準	平常点（授業への取り組み姿勢や自主的な参画姿勢）60点 授業内でのワークやレポート 40点
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	必要に応じて、適宜授業毎に配付します。
参考書・参考資料等	『イノベーションの達人！－発想する会社をつくる10の人材』（2006 トム・ケリー他 早川書房） 『考えなしの行動？』（2009 ジェーン・フルトン・スーリ 太田出版）
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	コロナウイルス感染の状況によってオンラインで実施する場合がありますのでご注意ください。
実務経験を活かした授業	

長岡造形大学 シラバス 2022

科目名	美学
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（前半クォーター）
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	小松佳代子
授業の概要及びテーマ	美術制作のただ中における制作者の思考や探究を「研究」と捉える Arts-based Research を実践すべく、芸術に関する哲学と制作者の実感とを関連づけて議論する。今年度は、ジャック・ランシエール『感性的なもののパルタージュ』をテキストに、美学と政治との関係を考える。美学の基礎的理論とその思想史的背景・現代における課題を学びつつ、受講者それぞれの制作や実践を理論的に省察することを目指す。
達成目標	自らの制作・実践に関して理論的に語れるようになること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力／統合力／問題解決力を養う授業 この授業は、特に下記の点と関連している。 自らの研究領域において、高度な専門能力を修得していること 研究に際し、理論と実践の両面から探求していること
授業計画	01 政治と美学の関係 02 モダニティ批判 03 感性的なものと技術的なもの 04 芸術のフィクション性 05 芸術と労働 06 政治としての美学 07 批判的芸術 08 反美学
成績評価基準	授業内における議論と深い思考、レポートを総合的に判断する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	ジャック・ランシエール『感性的なもののパルタージュ』法政大学出版社 2009 Jacques Ranciere, Aesthetics and Discontents, Polity, 2009
参考書・参考資料等	小松佳代子編著『美術教育の可能性—作品制作と芸術的省察』勁草書房 2018 今井康雄編『モノの経験の教育学—アート制作から人間形成論へ』東京大学出版会 2021
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	デザインと法務
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（前半クォーター）
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎渡辺誠介、藤澤崇彦
授業の概要及びテーマ	知的財産権についてさらに理解を深め、契約行為の意義やノウハウについて学ぶ。（学部共通「知的財産権論」の履修を踏まえた内容）
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作する者として自分が創作したデザインに関して、法律上発生する権利、取得し得る権利、及び、行使し得る権利を常に意識し、これらの説明ができる。 ・ 自分が創作したデザインに関する権利を意識するのと同様に、他人の創作を尊重し、その権利を侵害しないようにする意識を持ち、これらの意義を説明できる。 ・ 知的財産権制度の体系を知得し、これらの概要を説明できる。 ・ デザインを創作しようとする場合、参考にした他人の著作物の関係性を意識すること、また、引用した他人の著作物を適切に明示することを常態として保有し、これを課題作成などにおいて実行できる。 ・ デザイナー・作家として知財の保護、契約および活用の基本を理解する。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	創造力／統合力／問題解決力を養う授業
授業計画	<p>01 ガイダンスと動画サイトの近年の知財関連の動き（渡辺）</p> <p>02 オリンピックエンブレム問題とキャラクタービジネス（渡辺）</p> <p>03 デザインと知的財産（藤澤）</p> <p>04 デザインと産業財産権（藤澤）</p> <p>05 造形大での知財の実現化事例（渡辺）</p> <p>06 デザインと著作権（藤澤）</p> <p>07 デザインと契約等（藤澤）</p> <p>08 各人の知財案件の知財化計画と契約案の発表と講評：渡辺</p> <p>*上記テーマと担当教員は、適宜学生の本テーマの習熟度に応じて適宜変更することがあります。</p> <p>*藤澤担当の授業については、土曜日に2時間続きで2回（計4時間実施）の開講を予定しています。</p>
成績評価基準	報告書・課題等の提出自体及び内容評価70%、授業姿勢30%とし、総合評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	<p>「知的財産権とデザインの教科書」渡辺知子、龍村全、日経BP社、2009年</p> <p>知財教材「デザイナーが身につけておくべき知財の基本」（特許庁HP） https://www.jpo.go.jp/resources/report/kyozai/chizai_kyozai-designer-kihon.html</p> <p>その他</p>
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	特許庁で実務に関わっている教員が非常勤講師として講義を行います。

科目名	形と素材
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（後半クォーター）
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎久保光徳、寺内文雄
授業の概要及びテーマ	授業の前半においては、生活の中で自然発生的に生み出されてきたと思われる人工物の形態に対する考察の紹介を起点として、身の回りの形を有するモノへの考察を試みたいと思います。形の単純化を行い、簡単な力学的解釈を通してその形の意味を探ります。後半においては、簡単な実験を通してヒトの触知覚や力覚、嗅覚といった感覚特性の特徴を体感してもらいます。ついでこれらの感覚に基づいて、工業材料の特性を改めて捉え直すこととします。そして素材や工業製品、あるいはその画像データを収集し、感覚的な側面から材料を捉え直すこととします。
達成目標	工業材料に対する基本的な知識を身につけるとともに、人の感覚と素材やそれによって構成される形態の物理的・化学的特性との間にある意外な関係を体験的に理解していきましょう。そして人間の感覚特性の視点から、新たな材料の活用可能性や製品提案をしていけるような素養を身につけてもらうことを最終目標としています。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>1回2コマ（全4回）</p> <p>01 身近なかたち（1）：ヒモとテンセグリティ 02 身近なかたち（2）：紙飛行機 03 身近なかたち（3）：郷土玩具 04 身近なかたち（4）：紙で作る民具 05 ヒトの感覚特性（1）：触知覚と力覚 06 ヒトの感覚特性（2）：嗅覚の活用可能性 07 ヒトからみた材料の活用可能性：材料と形状の関係 08 ヒトからみた材料の活用可能性：時間軸でみるデザイン</p> <p>前半 01 から 04 では実際に作りながらそれぞれの形を理解してもらいたと思いますので、ハサミやカッター、カッターマットなどの簡単な工作セットを準備しておいてください。</p>
成績評価基準	各週課される小課題の提出状況と内容（40%）、プレゼンテーションにおける発表姿勢と内容（50%）、および授業への意欲、積極性（10%）を総合評価に加える。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	授業中に配付する
参考書・参考資料等	授業時に指示する
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	材料なくして、モノを作ることはできません。工業材料に基本的知識を獲得すると同時に、体験することを通して、人と材料、そしてその材料によって構成される形態との関係を考え直してみてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	構想発想手法論
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（後半クォーター）
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	板垣順平
授業の概要及びテーマ	近年、デザインの思想において人間中心設計の考え方が一般化しつつある中で、デザインシンキングが注目を集めています。この演習では、スタンフォード大学 d. school やアメリカのデザインファーム IDEO が実践している Design Thinking のプロセスをもとに、ひとりきりのデザインの捉え方や考え方をワークショップ形式で体験し、身近な問題発見からその解決方法、アイデア創出に必要なプロセスを学ぶとともに、イノベーションの創出原理を理解します。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間中心設計の本質を理解する。 ・デザインシンキングの手法を身に着ける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業 (問題発見・解決プロセスとしてのデザインに必要な他者理解力や洞察力を養う。)
授業計画	01 オリエンテーション（人間中心設計とデザインシンキング） 02 発想の原理Ⅰ（インタビューと経験グラフの作成） 03 発想の原理Ⅱ（思考の飛躍と問題発見） 04 発想の原理Ⅲ（ブレインストーミング） 05 発想の原理Ⅳ（情報の整理とまとめ） 06 発想の実践Ⅰ（デザインシンキング実践編） 07 発想の実践Ⅱ（デザインシンキング実践編） 08 発想の実践Ⅲ（デザインシンキング実践編）
成績評価基準	平常点（授業への取り組み姿勢や自主的な参画姿勢）50点 最終授業でのプレゼンテーション 50点
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	必要に応じて、適宜授業毎に配付します。
参考書・参考資料等 用具	『発想法 改訂版-創造性開発のために』（2017 川喜田二郎 中公新書）
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業は、原則的に NaDeC BASE で実施します（バスチケット支給）。また、本学の大学院生だけでなく長岡市役所の職員や他大学の受け入れも行う場合があります。コロナウイルス感染の状況によってオンラインで実施する場合がありますのでご注意ください。
実務経験を活かした授業	米国スタンフォード大学 d. school が実施しているデザインシンキングを習得するプログラム “Design Thinking Bootcamp” を修了した教員が当該プログラムの内容に沿って実施します。

科目名	サステイナブル環境論
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（前半クォーター）
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎渡辺誠介、飯野由香利
授業の概要及びテーマ	<p>概要 サステイナブル（持続可能）な建築と環境を構築するために、設計・施工・運用の各段階を通じて、地域レベルでの生態系の収容力を維持しうる範囲内で、以下の三つの視点を学ぶ。 （１） 建築のライフサイクルを通じての省エネルギー・省資源・リサイクル・有害物質排出抑制 （２） 地域の気候、伝統、文化および周辺環境と調和を図る （３） 将来にわたって人間の生活の質（QOL）を適度に維持あるいは向上させていくことができる建築物と空間を考える</p> <p>テーマ 日本・および世界のサステイナブル環境の事例を（１）建築の省エネルギー・省資源の観点、（２）気候、伝統、文化、周辺環境との調和の観点、（３）建築・環境と QOL 維持の観点から学ぶ</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブルな建築と環境の定義、事例、課題を理解する。 ・CASBEE 制度の理解を深める。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>ヴァナキュラー（土着的）建築や環境のサステナビリティと、近年の技術を用いた建築や環境のサステナビリティについて、CASBEE 制度を参考にしつつ、理解を深める</p> <p>01 サステイナブル環境論概論 02 建築の省エネルギー・省資源 03 CASBEE 制度について 04 気候、伝統、文化、周辺環境との調和と SDG s 05 建築・環境と QOL 維持 06 改正建築物省エネ法について 07 スマートシティ、スーパーシティについて 08 まとめ</p>
成績評価基準	レポートにて評価
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	『ヴァナキュラー建築の居住環境性能—CASBEE 評価によりサステイナブル建築の原点を探る』 村上 周三 著 慶應義塾大学出版会
参考書・参考資料等	『実例に学ぶ CASBEE』 村上 周三 著 日経 BP 社
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	QOL を維持しながら低炭素社会を実現するための方策に関して興味・関心を持っていること
実務経験を活かした授業	

科目名	インターフェイス論
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（後半クォーター）
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎金山正貴、徳久達彦
授業の概要及びテーマ	製品のハードウェアデザインや GUI デザインなどのインターフェースの重要性について、実際に存在する携帯端末やパソコン、公共機器、画面デザインなどを題材に、具体的な例の解説や演習を交えながら講義をおこないます。
達成目標	製品のハードウェアデザインやソフトウェアの GUI デザインにおけるインターフェースデザインの基本的な考え方と、製品をデザインする際に必要となるスキルについて理解できること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02～04 WEB・画面 UI におけるインターフェースデザイン 05～07 プロダクトデザインにおけるインターフェースデザイン 08 まとめ
成績評価基準	提出するレポート内容及び、受講姿勢を勘案して評価する。 各レポートの得点の平均点から、欠席、遅刻に応じて点を減ずる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業において適宜プリントを配付する。
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜指示する。
用具	PC (win, mac どちらかで可) の用意をすること。
履修制限等	履修者3名以上を開講の条件とする
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	デジタルテクノロジー
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（前半クォーター）
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎増田 謙、土田知也、徳久達彦、真壁 友、森本康平
授業の概要及びテーマ	21世紀、所謂IT革命によって世界の姿は大きく変貌しつつある。デジタルテクノロジーはあらゆる分野に劇的な変革をもたらし、我々が属するデザイン、建築環境、アート、クラフト領域においても好むと好まざるに関わらずその影響を免れ得ない。このデジタルテクノロジーがあまねく行き渡った世界において、我々が日々の創作に向き合う為にはそのデジタルテクノロジーについての本質的、多面的な理解が不可欠である事は言うまでもない。本科目では5人の教員からそれぞれの分野におけるデジタルテクノロジーの意義、最新事例、活用手法について学んでいく。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の講義で講師から各分野におけるデジタルテクノロジーの意義、最新事例を学び理解する。 ・ 自身の研究領域とデジタルテクノロジーとの関わり/活用方法を理解し、より広い視野から研究活動に活かせるようになること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>01 増田 3D/CADの歴史 02 増田 3Dプリンター/工作技術の歴史 03 真壁 Arduino プロセッシングによるコーディング・電子工作の実習 04 真壁 Arduino プロセッシングによるコーディング・電子工作の実習 05 土田 デジタルテクノロジーと社会：造形に与えた影響 06 土田 デジタルテクノロジーと社会：ものづくりに与えた影響 07 徳久 デジタルコンテンツへの展開 08 森本 デジタルツールを用いたプロトタイピングとコラボレーション</p> <p>*各教員の担当順番と回数は変更の可能性あり</p>
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各回ごとにレポートを提出し、各担当教員が採点を行い、その総合点を基準とする。 ・ 単位取得には2/3以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。 ・ 評価基準の各要素の割合 受講態度 20%、課題レポート 80% 授業態度では授業に取り組む姿勢、課題ではレポートの出来により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	各授業にて適宜指示もしくは配布する場合あり
参考書・参考資料等	各授業にて適宜指示もしくは配布する場合あり
用具	各授業にて適宜指示
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本科目を通してデジタルテクノロジーの時代の表現活動について再考し、自らの研究の立脚点を再認識し、新しい表現形態、表現手法を獲得してほしい。
実務経験を活かした授業	

科目名	文化財建造物とデザイン
学年	修士課程第1学年
開講期	前期（前半クォーター）
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	津村泰範、◎平山育男
授業の概要及びテーマ	環境文化財学の領域における専門的で必要となる知識・情報の修得に努める。 建造物の保存修復計画（津村） 建造物、集落町並みの保存修復（平山）
達成目標	建造物、記念物、集落、町並みなど環境文化財（不動産文化財）の価値評価に関する基礎理論、方法論及びその国際関係を学びます。併せて「もの」を観る確かな目を養うことを目標とする。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	問題解決力を養う授業
授業計画	それぞれの課題について、以下のような方法で授業を進める。 〔(1) 建造物の保存修復の計画〕 事業として行われる建造物保存修復の流れと構成を理解し、保存の歴史にそった修復事例から人や組織の役割とその意義を学び、今日の保存修復のあり方を考える。 〔(2) 建造物、集落町並みの保存修復〕 履修者の修士課程研究に関する物件についての修理工事報告書、町並み調査の報告書、関係資料などの読解を通じ、調査に関する基礎的な方法、理論を修得するとともに現状における問題点を明らかにしていく。 01 (1) - 1 復原事業の取り組み 02 (1) - 2 修復における調査 03 (1) - 3 設計と監理 04 (1) - 4 まとめ 05 (2) - 1 歴史的建造物関連資料の収集・説明 06 (2) - 2 歴史的建造物関連資料の読解 07 (2) - 3 歴史的建造物関連資料の図化・翻刻化 08 (2) - 4 まとめ
成績評価基準	受講態度 20%、課題提出 80%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	各回の授業で配布。後半の授業では『匠明』社記集、殿屋集などを用いる。
参考書・参考資料等	文化財保護法（六法全書）
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本授業は修士課程研究を進める上で、基礎的な素養と方法を修得するものである。履修者の主体的な取り組みを望む。
実務経験を活かし た授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	社会とアート
学年	修士課程第1学年
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	1
担当教員	◎小松佳代子、神野真吾、伊藤達矢
授業の概要及びテーマ	社会におけるアートの位置づけとその可能性を考える。現代社会の諸問題をアートと接続して考えることで、アーティストとして社会につながっていくための基礎的な知見を得る。
達成目標	現代社会の諸問題を自分なりの視点で考え、社会におけるアートの位置づけを実践者・享受者両方の視点から考察できるようになること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業 本科目は、以下の三つの点に特に関連している。 自らの研究領域において、高度な専門能力を習得していること。 研究に際し、理論と実践の両面から探求していること。 高い倫理性を備え、社会における自己の責任を自覚していること。
授業計画	01 インTRODクシヨN (小松) 02 アートと社会実践 (小松) 03 ホワイトキューブからリアルな社会へ (神野) 04 展示空間から社会とアートの関係を考える (神野) 05 アートを虚と実の関係性から見てみる (神野) 06 虚と実の間で表現を考える (神野) 07 アートと社会課題の関係 (小松) 08 芸術の教育的転回 (小松) 09 とびらプロジェクトの活動概要とその目的 (伊藤) 10 アート・コミュニケーターが活動するための仕組み作り (伊藤) 11 ミュージアムが取り組むダイバーシティ (伊藤) 12 「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点の取り組み (伊藤) 13 アートが切り結ぶ社会とは? (小松) 14 社会に介入するアート、アートに基づく社会学 (小松) 15 アートと社会、そして人間形成 (小松) ※ ただし授業の進行上、時間割及び計画通りの進行となるとは限らない。
成績評価基準	受講態度 30% 授業内での議論 40% レポート 30%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	北田暁大・神野真吾・竹田恵子編『社会の芸術/芸術という社会—社会とアートの関係、その再創造に向けて』フィルムアート社 2016年 とびらプロジェクト編『美術館と大学と市民がつくるソーシャルデザインプロジェクト』青幻舎 2018年 岡原正幸編『アート・ライフ・社会学』晃洋書房 2020年 クレア・ビショップ『人口地獄—現代アートと観客の政治学』フィルムアート社 2016年 アート&ソサイエティ研究センターSEA研究会編『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践』フィルムアート社 2018年
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本授業は講義形式と受講者による議論で運営していきます。積極的に参加してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	地域と工芸デザイン
学年	修士課程第1学年
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎小松佳代子、木田拓也、鞍田崇、吉田守孝
授業の概要及びテーマ	工芸デザインの歴史や内外の動向、ものづくりの現場の実際と地域社会との結びつきなどから工芸の本質と地域における実践的課題を俯瞰的視野で捉える。学んだ内容を自らの制作・研究に生かしていくために、課題を抽出して議論する。
達成目標	地域と工芸デザインを考えるための自分なりの視点を獲得することができる。 講義内容を論理的にまとめ、各自の研究と絡めた議論ができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシーとの関連)	創造力/統合力/問題解決力を養う授業 この授業は、ディプロマポリシーの以下の点に特に関係している。 自らの研究領域において、高度な専門能力を修得していること 研究に際し、理論と実践の両面から探求していること 広く社会において、問題解決を伴う新たな価値を創造する能力を修得していること
授業計画	<p>01 デザインと哲学：いまなぜ地域と工芸デザインか？（鞍田） 02 デザイン・サーベイ：地域にあるホンモノを見つけるまなざし（鞍田） 03 工芸性へのまなざし：民藝をノイズ化する（鞍田） 04 インティマシーをデザインする（鞍田） 05 プロダクトデザインの仕事：系譜と事例（吉田） 06 モノ作りのこと：2つの素材、2つの現場（吉田） 07 産地のこと：作り手の想いとデザイナーの考え（吉田） 08 デザインと流通：取組みの事例と現場の様子（吉田） 09 地場産業の価値：柳宗悦・タウト・ペリアン（木田） 10 地場産業から生まれる工芸デザイン：あかり・クラフト・うつわ（木田） 11 工芸技術の保護と地域社会：無形文化財と伝統工芸（木田） 12 地域再生と工芸デザイン：地域資源としての工芸産業（木田） 13 見学研修準備 14 産地の今を知る（見学） 15 産地を取り巻く環境（見学）</p> <p>授業の進行上、時間割および計画通りの進行になるとは限らない</p>
成績評価基準	受講態度 40%、授業での議論 30% レポート 30%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	鞍田崇『民藝のインティマシー』明治大学出版会、2015年 『SORI YANAGI A DESIGNER』マガジンハウス、2003年 『別冊太陽 柳宗理』平凡社、2013年 『柳宗理 デザイン』河出書房新社、1998年 木田拓也『工芸とナショナリズムの近代』吉川弘文館、2014年 『あかり：イサム・ノグチがつくった光の彫刻』東京国立近代美術館、2003年 田中正之編『現代アート10講』武蔵野大学出版局、2017年 ナガオカケンメイ企画『デザイン物産ニッポン展』美術出版社、2008年
用具	必要なものを事前に周知する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	現代生活の中で「工芸」というものを、理論と歴史、地域という視点から客観的に把握・理解して欲しい。そのためにも事前に非常勤講師の業績を確認し、各自の研究へ繋がる箇所を見出すこと。今年度は福島昭和村への見学旅行を予定している。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築物と空間の安全
学年	修士課程第1学年
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	津村泰範
授業の概要及びテーマ	都市や建築における防災や適正な土地利用などの「安全」について学ぶ。
達成目標	都市や建築に関する設計実務において必要な安全についての理論を修得すること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>人間が構造物(建築)を作り、都市に集住するようになると、それまでは意識されなかった空間という概念が発生した。建築の内部空間と都市空間である。</p> <p>構造物は倒壊のおそれと戦い、ついで外部からの様々な力に対する安全性を確保し、最後に空間の快適性の追求という時間的経緯を経て来た。一方都市は極めて政治的な空間として発達する。古代ギリシアの都市の規模、帝国の首都としてのローマ、中世の軍事拠点化した西欧の都市、近世以降の国家の首都としての諸都市、アジアやイスラム圏の諸都市など様々である。17世紀に起きたロンドン大火は都市の姿に大きく影響したが、その後の産業革命を経て諸問題が噴出した。都市は交易地としての基本的性格に加えて防衛拠点としての性格、時の権力者の権威の表現手段としての性格を経て、産業革命の波は都市を膨張させ、若者の育成と都市の衛生問題が関連づけられて問題視されたのである。大量破壊兵器等の開発や、地震を始めとした自然災害も巨大化した都市にとっては無視できない問題となった。我が国では都市や建築の安全性に関しては都市計画法や建築基準法、または消防法の形として規定することとなったのである。</p> <p>日本における建築物の安全性に関しての方向を決定した近代的建築法制は1919年制定の市街地建築物法である。これは明治維新後の明治政府が50年をかけて準備し、まとめた都市と建築に対する安全の考え方の集大成とも言えるのである。</p> <p>01 銀座大火から学ぶ 現代の都市計画法の防火地区等の概念への流れを概観する。</p> <p>02 東京の都市問題の顕在化—東京市区改正条例の動き(1) 新潟県令、ついで東京府知事に就任した楠本正隆(明治10年—1877)、芳川顕正、から渋沢栄一など都市改造案に関わった人物とその思想について概観する。</p> <p>03 東京の都市問題の顕在化—東京市区改正条例の動き(2) 新しい交通システムと江戸の都市構造からの脱却</p> <p>04 近代的構造方法の導入から濃尾地震、関東大震災までの考え方 構造強度上の安全に関する概念の始まりと日本への導入について。</p> <p>05 地震に対する構造安全性に対する概念の興隆 木構造の耐震性能の向上を目指した、佐野利器の「家屋耐震構造論」への理論展開。</p> <p>06 佐野利器の考え方 サンフランシスコ地震(1906)の教訓から学ぶ。佐野の思想を法律にしたのが東京市建築条例であり、その系譜は現在の東京都安全条例に繋がってくる経緯を述べる。</p> <p>07 大都市を対象とした都市計画法、市街地建築物法への展開過程 人口が集中しだした大都市における、東京で行われていた市区改正を参考とした都市計画法を制定しようとする機運の高まり。</p> <p>08 市街地建築物法(1919)における安全の概念、主旨 用途地域制度、建築線、建築物の高さ制限、空地割合、一般建築物と特殊建築物の規定、防火地区の規定、美観地区の規定、有害な建築物の除去、法の適用区域などの内容の解説と現行の建築基準法への移行する主旨を火災、震災、風災の観点から解説する。</p> <p>09 日本における耐震構造の進展と関東大震災の経験 内藤多仲による耐震の考え方を概説し、関東大震災前後の日本の構造設計における安全に対する考え方を概説する。</p> <p>10 水平震度0.1、高さ制限100尺の解説 佐野利器によって提唱された水平震度は、関東大震災の下町では0.3とされたが、構造強度規定では0.1とされた。その理由を概説する。一方高さ制限は居住地域では65尺、それ以外では100尺、さらに周囲が公園のような広い場所では100尺を超えられる規定となった理由について論ずる。</p> <p>11 柔剛論争とは 市街地建築物法の震度法に基づく耐震計算の原則は建築物の剛性・強度を強くして、外力に対して変形しにくい堅い構造にさせようとした。これは剛構造志向する佐野利器の姿勢でもあった。一方昭和初期の段階で真島健三郎の唱える振動理論を裏付けとした柔構造を推奨した。つまり建築物は剛性を下げ、柔らかく作ったほうが地震との共振が避けられるという主張である。この柔剛論争について解説する。</p> <p>12 建築基準法の安全に対する理念 昭和25年に新生建築基準法が制定された。その成立の過程と理念を概説する。</p> <p>13 構造規定のその後を解説する 基準法の改正による考え方を解説し、構造規定の変遷を明らかにする。その改正を裏付ける安全性に対する考え方を明らかにする。</p> <p>14 消防法にみる安全に関する理念について 新たな建築を作ろうとする場合、建築基準法の確認申請と平行して消防法に規定された内容もクリアする必要がある。その消防法の理念を解説する。</p> <p>15 防災と人間—まとめにかえて 以上14講では概ね都市空間や建築空間としての物理的空間に対する考え方と構造技術的、構造学問的な進化を法律という形で社会に浸透させようとした行為であった。しかしながら、建築や都市は単に物理的な空間だけを扱うものではなく、そこに住まう人の問題が重要である。近年起きている震災や水害、大火などからの復興には「自助、共助、公助」が必要であることが顕在化した。つまり人間による空間づくりが必要となるのである。</p>

長岡造形大学 シラバス 2022

成績評価基準	受講態度 20%、課題提出 80%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	適宜、資料を配付する。
参考書・参考資料等	『日本建築構造基準変遷史』大橋雄二、財団法人日本建築センター、1993 年
用具	特に必要ありません。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	設計において安全性は極めて重要であり、設計実務においてこの点を常に重視する実務者になってもらいたい。
実務経験を活かした授業	

科目名	文化財建造物活用論
学年	修士課程第1学年
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	津村泰範、◎平山育男、梅嶋修
授業の概要及びテーマ	環境文化財（不動産文化財）の調査、修復、修景、設計のプロセスについて実践的に経験する。以下の各テーマにより、文化財保存の実際を演習として体感する。併せて、インターンシップに向けた準備を行う。 ・ 歴史的な建物の保存修復と活用（津村） ・ 集落町並み保存、調査、保存計画策定（平山）
達成目標	文化財保存を実践的に学び、その過程を修得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	問題解決力を養う授業
授業計画	歴史的な建物の保存修復と活用は、建物の価値を再評価して高め、保存状態をより良く整える機会となる。事例の研究や現場の見学・体験を通し、調査、設計、監理、記録作成、活用計画など、事業として成り立っている保存修復の方法や過程を理解するとともに、専門家の備えるべき理論と技術の基礎を身につける。 01 全体説明、計画の設定 02 計画の進め方を検討 03 現地準備 04 現地状況の分析、計画の策定 05 現地調査 06 現地調査 07 成果の整理と分析 08 中間発表 09 現地調査 10 事例研究、成果の整理と分析 11 事例研究、成果の整理と分析 12 成果の整理と分析 13 成果のまとめ 14 現地報告 15 最終発表・講評
成績評価基準	受講態度 50% 課題の提出と発表 50%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業内容に応じて適宜作成して配付
参考書・参考資料等	文化庁提供の国宝・重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区、登録有形文化財などに関する資料 http://www.bunka.go.jp/bunkazai/index.html 橋本市 橋本市の町と町家 平成14(2002).3
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	本授業は、各人の修士研究の橋渡しをすると同時に、文化財保存により社会に参加することの足掛りを作るための授業である。机上の空論に終わらず、社会の現実を体感してもらいたい。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	ランドスケープ・アーキテクチャ論
学年	修士課程第1学年
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	柏原信幸
授業の概要及びテーマ	ランドスケープ・アーキテクトは、健全な地域環境をデザインする責務があります。流域単位で環境を総合的にとらえれば、デザイン対象は建築単体や公園緑地にとどまらず、道路、河川、海岸、農地、山林とあらゆる外部空間が対象となります。開発の機会を活用して現在の環境よりも優れた環境を創出して地域に還元することも不可能ではありません。地域環境と生物多様性を踏まえた設計ができる専門家を目指します。生態系とエンジニアリングとデザインの三要素をフルに活用して空間を計画設計する手法を学びます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の自然環境のあるべき姿を読みとることができる。 ・ 流域単位で建築とランドスケープを位置づけることができる。 ・ 地域環境と景観に配慮した計画設計ができる。 ・ 地域の生態系を理解して生物多様性に貢献する計画ができる。 ・ 環境配慮を前提とした等高線の操作と雨水排水活用ができる。 ・ 将来像を正確に伝えることができる。 上記項目は大学院レベルの達成目標とします。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	インターンシップを補う実践的な技術習得のため、エコロジカル・ランドスケープの観点から、講義とディスカッションを通して各受講者が取り組んでいる課題を展開する
成績評価基準	授業受講態度を考慮して課題作品を評価します。 最低出席回数 10 回、遅刻は出席回数に含めません。出席 10 回未満は採点の対象外とします。
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり
テキスト(教科書)	エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎 理工図書 4,200 円
参考書・参考資料等	各受講者が取り組んでいるテーマにふさわしい参考書を適宜お勧めします。
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	スケッチをたくさん描いて自然環境と景観を総合的に理解しましょう。
実務経験を活かした授業	コンサルタンツで実績のある教員がランドスケープの計画設計施工について講義する。

科目名	建築設計論
学年	修士課程第1学年
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎山下秀之、与那嶺仁志、飯野由香利
授業の概要及びテーマ	<p>実学である建築の革新性、多様性、および地域性を踏まえた、意匠設計・構造設計・環境工学について学ぶ。</p> <p>【A 意匠設計】 時代を切り拓く建築ができる上で、必ず革新的な発想が欠かせない。本講義では「発想のメカニズム」をテーマに、下記の2つの事例をとりあげる。人が革新的物事を生み出す際の思考プロセス、および発想から設計・建設にいたるまでの知識と技術を、綿密に実務的に修得する。</p> <p>【B 構造設計】 構造設計は数式の羅列との印象が強いが、計算だけでは成立しない。構造システムとして成立して初めて構造計算に至る。構造システムを考えるには、経験と感性が必要となる。本講義では、ラーメン構造や壁式構造等の従来のシステムではなく、特殊な構造を考えることからはじまり、架構模型を造ることにより力の流れや外力に対する方法を修得する。</p> <p>【C 環境工学】 地球環境問題や資源枯渇の実態などに関する知識と技術を修得する。気候・風土と建築内の熱・光・空気・音環境の様々な要因の相互関係や現象（メカニズム）を理解し、総合的に捉えて設計する素養を養成する。技術革新を踏まえた今後の設備の動向を把握する。</p>
達成目標	建築設計の実務の場において、革新的な発想を実現する力を身につけること。計算では無く、構造システムを創造できるようになること。建物の室内外環境の現象について検討・分析でき、将来の環境問題などの動向や技術革新を踏まえた持続可能な建築や設備の設計を行うことができること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>01 意匠1：建築設計の理論化について</p> <p>02 意匠2：東京国際フォーラムのガラスキャノピーを題材に、全ガラス構造体の「デザイン」について (1)</p> <p>03 意匠2：同、(2)</p> <p>04 意匠2：同、(3)</p> <p>05 意匠2：横浜客船ターミナルを題材に、先駆的現代建築の「デザイン」について (1)</p> <p>06 意匠2：同、(2)</p> <p>07 意匠2：同、(3)</p> <p>08 構造1：材料力学の歴史</p> <p>09 構造2：橋の歴史</p> <p>10 構造3：テンセグリティ構造</p> <p>11 構造4：特殊な構造</p> <p>12 環境1：地球環境問題や資源の枯渇の実態とこれらに対応した建築や設備</p> <p>13 環境2：建築内外の温熱・光・空気・音環境のメカニズム</p> <p>14 環境3：様々な建築内外の複合環境と設備制御の実例</p> <p>15 環境4：持続可能な建築設計や設備制御 (内容が変わったり、順番が前後する可能性あり)</p>
成績評価基準	<p>A/意匠設計：「自身の建築作品のオリジナリティについて」小論文 (100%)</p> <p>B/構造設計：課題の構造模型をつくりお互いに講評する。学生による講評点 (30%)、教師による講評点 (30%)、課題条件への適合点 (40%)</p> <p>C/環境設計：レポート (70%) や発表 (30%)</p> <p>以上の総合評価点を、成績とする。</p>
出席・遅刻の基準	各教員により初回授業にて説明する。
テキスト(教科書)	構造・環境：適宜、資料を配付する。
参考書・参考資料等	<p>A/GA JAPAN 誌掲載の論考「発想のメカニズム」、山下秀之著</p> <p>B/材料力学史 S. P. ティモシェンコ著 鹿島出版会、構造と感性 川口衛 法政大学建築学科同窓会</p> <p>C/図説テキスト 建築環境工学、加藤信介・土田義郎・大岡龍三著、彰国社</p>
用具	特になし
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	<p>A/パリにポンピドーセンターが出現した時、賞賛したのはNY タイムズだけ。その他すべてのメディアがこきおろした。もちろん大多数のパリジャンも嫌悪した。しかし今ではパリに欠かせぬ建築である。時代を切り開いた偉人達の軌跡をよく知ることは、君たちの創作に深く影響を与える。オリジナリティに対する憧憬と高揚を持って挑んでほしい。</p> <p>B/自分に構造の才能があるとかないとかは、決めつけないこと。まず、骨組みを考えることから始め、思考錯誤を繰り返すことにより構造に対するセンスを養って欲しい。</p> <p>C/未来に起きると推定される地球規模の環境問題などに目を向けて持続可能な建築のあり方を習得する意識や意欲を持って欲しい。様々な課題を解決するための建築内外の環境の熱・光・空気・音環境のメカニズム、及び設計や設備制御方法に興味・関心を持って情報収集してください。</p>
実務経験を活かした授業	意匠設計(山下)と構造設計(与那嶺)は、豊富な実務実績に基づいた授業を行う。

科目名	クリエイティブディレクション
学年	修士課程第1学年
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	講義
単位数	2
担当教員	◎水川毅、藤富 正彦、角田 誠
授業の概要及びテーマ	<p>クリエイティブディレクションとは、グラフィックや TVCM から Web や SNS まで、広告表現全体を設計することです。それは、核となるメッセージを、言葉とビジュアルで組み立てることから始まります。</p> <p>マスメディア中心から細分化されたデジタルメディアへと、広告コミュニケーションは激変をつづけています。そんな今だからこそ、あらゆるメディアを貫くシンプルなメッセージを組み立てる力＝クリエイティブディレクションの重要性がますます高まっているのです。</p> <p>本講義では、言葉（コピーライティング）とビジュアル（アートディレクション）の技術を中心に、その具体を学びます。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブランドの課題と解決策を発見できるようになる。 ・ コピーライティングとアートディレクションの技術を身に着ける。 ・ 広告の全体設計＝クリエイティブディレクションができるようになる。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	創造力／統合力／問題解決力を養う授業
授業計画	<p>01 広告の作り方</p> <p>02 コピーライティング 1</p> <p>03 コピーライティング 2</p> <p>04 コピーライティング 3</p> <p>05 コピーライティング 4</p> <p>06 アートディレクション 1</p> <p>07 アートディレクション 2</p> <p>08 アートディレクション 3</p> <p>09 アートディレクション 4</p> <p>10 TVCM プランニング 1</p> <p>11 TVCM プランニング 2</p> <p>12 WEB 広告のプランニング</p> <p>13 クリエーティブディレクション 1</p> <p>14 クリエーティブディレクション 2</p> <p>15 クリエーティブディレクション 3</p>
成績評価基準	提出課題 70%、授業参加態度 30%
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	<p>『言葉の技術』磯島拓矢 朝日新聞出版社 1,620 円</p> <p>『名作コピーの教え』鈴木康之 日本経済新聞出版社 3,024 円</p> <p>『幸福を見つめるコピー』岩崎俊一 東急エージェンシー 1,400 円</p> <p>『大貫卓也全仕事 2 Advertising is』グラフィック社 10,000 円</p>
用具	
履修制限等	・ 開講条件として履修者が 2 人以上であること。
履修希望者への要望・事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい情報や話題に積極的に接する姿勢。 ・ 人間や社会を日常的に観察する姿勢。
実務経験を活かした授業	藤富正彦・角田誠：大手広告代理店のクリエイティブ・ディレクターとして多くの企業の広告を手がけてきた実務経験を活かして、クリエイティブ・ディレクションとしての基本的な考え方の講義を行う。

科目名	プロトタイピング演習
学年	修士課程第1学年
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎増田 謙、真壁 友、森本康平
授業の概要及びテーマ	ニール・ガーシェンフェルドが著書 fab で宣言した、パーソナルファブリケーション/第3次産業革命が急速に進行しつつある。Arduino 等のオープンソースのプロトタイピング環境の登場や、RepRap.org による 3D プリンターの普及化運動等によって、従来電機メーカーによる大量生産しか在り得なかった家電製品製造に一個人での参入が可能となり、手作り/少量生産のプロトタイプ製品が市場に出る時代が到来した。本演習では、こうしたパーソナルファブリケーションのコンテキストに則り、学生が自分自身のためのユニークな一品生産の家電製品のプロトタイプを製作する。3DCAD による設計、3D プリンター、CNC による筐体制作、Arduino/Processing による実装によって学生個々人がプロダクト製品のデザイン、設計、製造のプロセスを学び、パーソナルファブリケーション時代のリテラシーを修得する。
達成目標	自分自身のためにカスタマイズされた家電製品のプロトタイプを製作する。また、この授業成果物を Maker Faire Tokyo に展示する事を旨とする。(Maker Faire Tokyo は抽選制なのであくまで努力目標とする。展示参加/不参加は成績に反映されない。)
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	問題解決力を養う授業
授業計画	01 ガイダンス 02 構想/エスキース作成 03 3D 設計 04 3D 設計 05 3D 設計 06 3D 出力 07 3D 出力 08 HW/SW 実装 09 HW/SW 実装 10 組み立て/検証 11 組み立て/検証 12 フィードバック 13 フィードバック 14 作品完成 15 デモ/プレゼンテーション 16 Maker Faire Tokyo 出展 (努力目標: 任意参加)
成績評価基準	コンセプト、3D 設計、3D 出力、HW/SW 実装、組み立て/検証、フィードバック、作品プレゼンテーション各ステージにおける理解度、達成度、作品の完成度を基準とした総合点とする。 単位修得には 2/3 以上の出席が必須で、それを下回る場合は単位を与えられない。提出課題の未提出・授業参加態度・欠席日数は最終評価において減点対象となる。 ・評価基準の各要素の割合 受講態度 20%、課題 60%、発表 20% 授業態度では授業に取り組む姿勢、課題ではアイデアと作品の仕上がり、発表ではプレゼン力により評価する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じて配付します。
参考書・参考資料等	
用具	コピックマーカー、色鉛筆、鉛筆、ボールペン、等、スケッチのための用具 マイコンボード Arduino (持参) { https://www.amazon.co.jp/Arduino-Rev3-ATmega328-マイコンボード-A000066/dp/B008GRTSV6 } Rhinoceros、Photoshop、Illustrator、Arduino、Processing がインストールされたノート PC。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	1) 以下ソフトウェアがインストールされたノート PC を用意してください。 *Rhinoceros(有料) 参考価格: Windows 版 38,880 円 Mac 版 19,440 円 { http://www.cad100.jp/rhinoceros/rhinoceros_academic.php } *Fusion360(無料)(Rhinoceros のかわりとして) { https://www.autodesk.co.jp/education/free-software/fusion-360 } *Photoshop、Illustrator、

長岡造形大学 シラバス 2022

	<p>*Arduino IDE(無料) {https://www.arduino.cc/en/Main/Software}</p> <p>*Processing(無料) {https://processing.org/download/}</p> <p>Arduinoを購入してください。(互換製品でも可) *マイコンボード Arduino { https://www.amazon.co.jp/Arduino-Rev3-ATmega328-マイコンボード-A000066/dp/B008GRTSV6}</p> <p>その他、作品によって何点か電子部品が必要となります。それらは別途購入が必要です。</p>
実務経験を活かした授業	

科目名	フィールド分析演習
学年	修士課程第1学年
開講期	前期
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎金山正貴、板垣順平、中島亮太郎、森本康平
授業の概要及びテーマ	問題解決の場面でデザインの手法や考え方が注目を集めるようになり、観察や対話を通じて他者を理解することが求められるようになった。 この演習では店舗等に設置されている機器の I/F に関わる問題や、「ファブキャン」を通して問題発見から解決まで取り組む。
達成目標	現場でのヒアリングや情報収集を通じて問題発見能力を身につける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	01 オリエンテーション @学内 (前半部・後半部合同) 02 課題概要説明、オブザベーション演習 @学内 (金山) 03 ジャーニーマップの説明と演習 @学内 (中島) 04 現場調査実施 @実店舗 (金山・中島) 05 調査結果のまとめ、ジャーニーマップの作成 @学内 (中島) 06 課題抽出とアイデア展開 @学内 (金山) 07 ペーパープロトタイピング演習 @学内 (金山) 08 アイデア検証・評価 @学内 (金山) 09-15 4月下旬から5月上旬に1泊2日のファブキャンを実施。発見→プロトタイプ→実施→評価までをキャンプで実施 (板垣・森本) (ファブキャン…最低限の装備のみでキャンプリ、必要なものは適宜、3D プリンタや DIY 等で自ら制作しながら生き抜く取り組み)
成績評価基準	提出する課題の内容及び、受講姿勢を勘案して評価する。 各課題の得点から、欠席、遅刻に応じて点を減ずる。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	授業において適宜プリントを配付する。
参考書・参考資料等	必要に応じて適宜指示する。
用具	必要に応じて適宜指示する。
履修制限等	開講条件として履修者が3人以上であること。
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	プロジェクト・マネジメントワークショップ
学年	修士課程第1学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	◎板垣順平、齋藤和彦、森本康平、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	この授業では、学内外で実施されている様々なワークショップやイベント等への参画や自らワークショップやイベント等を企画・実施しながら、ファシリテーションスキルやマネジメントスキルを習得します。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップやイベント等の企画実施に必要なノウハウやスキルを習得する。 ・自らが参画、企画・実施したワークショップやイベント等の分析と考察が行えるようになる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	01 オリエンテーション(授業説明と具体的な実施計画の策定) 02~05 学内外で実施されているワークショップ等に参画 06~10 学内外で実施されているワークショップ等に参画 11~15 ワークショップの企画立案と実施
成績評価基準	平常点(授業への取り組み姿勢や自主的な参画姿勢) 50点 授業成果物 50点
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト(教科書)	必要に応じて、適宜授業毎に配付します。
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この授業ではファシリテーションスキルやマネジメントスキルの習得を目的としているため、自主的な発言やアイデアの提案を心がけるようにしてください。
実務経験を活かした授業	

科目名	地域特別プロジェクト演習 I
学年	修士課程第1学年
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	専任教員、◎板垣順平
授業の概要及びテーマ	地域特別プロジェクト演習では、三つのPBL (Project Based Learning, Problem Based Learning, Practice Based Learning) から一つを選択し、実践を通して自身の修士研究やキャリアパスに繋がります。
達成目標	自主的・積極的にプログラムに参加し、トライ＆エラーから実プロジェクトにつなげるコツをつかむ事。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>それぞれのPBLに基づいた複数のプログラム案から、学生はそのプログラム案を自主的に選択し、関連教員とともに、プロジェクトを実施します。</p> <p>Project Based Learning (事業ベース型) Project Based Learningは、長岡をフィールドにチームとして取り組むべき内容を企画・立案し、実践を通してプロジェクトメイキングやグループダイナミクスに必要な能力を修得します。</p> <p>Problem Based Learning (問題発見解決型) Problem Based Learningは、企業や地域社会で顕在化されていない問題に対して、自身の専門性を活かしたアクションを通じてその解決に寄与することを目指します。</p> <p>Practice Based Learning (制作探求型) Practice Based Learningは、実践と理論を行き来しながら自らの専門分野における制作や活動を新たな視点から捉え直し、探求や思考のプロセスを他者に伝えることで研究の深化を図ります。</p>
成績評価基準	成績評価の基準や指標は各プロジェクトの担当教員によって異なりますので、事前に確認してください。
出席・遅刻の基準	プロジェクトによる
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	地域特別プロジェクト演習Ⅱ
学年	修士課程第2学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	専任教員、◎板垣順平
授業の概要及びテーマ	地域特別プロジェクト演習Ⅰで得た知見をベースに、さらに具体的なプロジェクトへと進化させる。
達成目標	地域特別プロジェクト演習Ⅰで得た知見をもとに、さらなるプロジェクトの発展や拡大ができるようになる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>それぞれの PBL に基づいた複数のプログラム案から、学生はそのプログラム案を自主的に選択し、関連教員とともに、プロジェクトを実施します。</p> <p>Project Based Learning (事業ベース型) Project Based Learning は、長岡をフィールドにチームとして取り組むべき内容を企画・立案し、実践を通してプロジェクトメイキングやグループダイナミクスに必要な能力を修得します。</p> <p>Problem Based Learning (問題発見解決型) Problem Based Learning は、企業や地域社会で顕在化されていない問題に対して、自身の専門性を活かしたアクションを通じてその解決に寄与することを目指します。</p> <p>Practice Based Learning (制作探求型) Practice Based Learning は、実践と理論を行き来しながら自らの専門分野における制作や活動を新たな視点から捉え直し、探求や思考のプロセスを他者に伝えることで研究の深化を図ります。</p>
成績評価基準	成績評価の基準や指標は各プロジェクトの担当教員によって異なりますので、事前に確認してください。
出席・遅刻の基準	プロジェクトによる
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	実務実習
学年	修士課程第1・2学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	4
担当教員	専任教員
授業の概要及びテーマ	企業、団体等にて実業務を担当し、社会性を養うとともに修士研究の高度化につなげる。 作家志向の学生の場合は、自分が目標とする作家や工房に弟子入り等をして、その背中を見つめ、作家としての社会人の在り方を学び、自身の修士研究の高度化につなげる。
達成目標	大学院修了時の自身のキャリアパスがリアルに描けるようになること。 組織であれば、自身の組織内の立ち位置を把握し積極的に関係者と関われる能力を実務を通して身に付ける。 作家であれば、プロとしての営業、制作等の進め方を身に付ける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	指導教員と相談し、自身のキャリアパスを考慮しながら実務実習の計画を立てる。 その後、実習を行う。(合計90時間。複数の実習を組み合わせることも可。ただし、1回の実習につき5日間以上とする) 最終的に報告書の提出および実務実習報告(プレゼンテーション)を行う。
成績評価基準	・ 受入先が将来仲間として迎えたいと思えるパフォーマンスの程度 ・ この実務実習の体験が自身のキャリアパス決定に影響を与えた程度 以上の2点をベースに総合的に判断する
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	
実務経験を活かした授業	

科目名	起業演習
学年	修士課程第1・2学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎渡辺誠介、栗井英大、板垣順平、福本 壘
授業の概要及びテーマ	社会保険・税務、起業に係る知識や技能を演習により学び、修了後のキャリアパスにおける自立性を身につける。 作家志向の者は、作家として生活できるプランの作成事務所設立志向の者は、事務所設立プランと運営プランの作成起業志向の者は、起業プランの作成を実施し、実際にスタートアップを図れる段階までプランを準備する。 これを実社会で発表し、支援者、融資希望者等を募る体験を経験する。 具体的には、起業シミュレーションコースと起業実践コースを用意し、最終的に合同発表をする。
達成目標	修了後の独立（する場合の）プランを作り、どこにプレゼンすれば可能性があるか実社会を理解する能力の獲得
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>【起業シミュレーションコース】</p> <p>01 ライフプラン 02～04 各分野の教員・先輩からの起業体験談 05 業界での仕事の種類と仕事の流れの研究 06～09 プロとしての「お金」と「財産」の研究、会計の基礎研究 10～24 起業計画策定（長岡大学起業家塾と連携：夏季休業期）</p> <p>I. 開講にあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業家塾開講にあたって ・社会人基礎力事前評価 ・プログラムの進め方 <p>II. プログラム展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム編成と役割検討 2. ビジネスプランとその作成方法（講義） 3. グループアイディアの整理 4. グループアイディアの中間発表フィードバック 5. 事業アイディアの構造化 6. ニーズ等調査（街頭インタビュー、インターネット等） 7. ビジネスプランのとりまとめ 8. ビジネスプランシートへの落とし込み 9. 発表練習 ■発表用シート（パワーポイント）の提出 10. ビジネスプランの発表 <p>25 今後の計画 26・27 起業プランの策定 28 中間発表（学内） 29 起業プランのブラッシュアップ 30 最終発表（学外）</p>
成績評価基準	起業シミュレーションコースも起業実践コースも最終発表時の成果を総合的に評価する。また各授業のステップでの参加状況もこれに加味する。
出席・遅刻の基準	履修ガイドの通り
テキスト（教科書）	
参考書・参考資料等	適宜配付します。
用具	
履修制限等	夏季休業期に短期集中スケジュールの長岡大学主催の「起業家塾」に参加します。スケジュールを年度初めに確認しておいてください。
履修希望者への要望・事前準備	将来、フリーランス、独立などを考える大学院生向けのカリキュラムです。将来フリーになった時の財務計画等、必ず必要になる事項のノウハウを学ぶ貴重な機会となります。 インターンシップ先の確定が指導教員と相談し難しいと判断した場合は、是非この授業を選択してください。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築士インターンシップA
学年	修士課程第1・2学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	4
担当教員	柏原信幸、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、◎平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	一級建築士事務所等に出向き、設計図書の作成など建築設計の補助業務を行う。本学指導教員と指導担当建築士とで協議し、受講者に適した業務内容を設定する。 テーマ 受け入れ先の業務を優先する。様々なプロジェクトの中から、受講者の希望を尊重しながらテーマを決定する。
達成目標	実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/問題解決力を養う授業
授業計画	インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。 01 事前準備・受け入れ設計事務所の調査 02 建築実務概要および業務マネジメントとは 03 専門分野の実務(1) 委託業務内容・コミュニケーション能力・企画能力 04 専門分野の実務(2) プロジェクト運営業務 05 専門分野の実務(3) 様々な法令との関係・計画全体の進め方と設計実務 06 専門分野の実務(4) 基本設計・実施設計・監理 07 実務経験 (1) 意匠・構造・環境設備・造園 08 実務経験 (2) 積算・工事契約・工事監理 09 実務経験 (3) 建設現場 10 その他の特約業務 11 労働安全と衛生 12 総括
成績評価基準	受け入れ先事業所の指導担当建築士による実務訓練に対する評価と、学生が提出した実習報告書をもとに評価を行う。実習は複数の受け入れ先にわたっても構わない。単位認定には連続または分割して合計160時間(概ね4週間)程度の実習を要する。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	特になし
参考書・参考資料等	特になし
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	原則として、各自が研修希望先を探して受け入れの交渉を行い、了解を受けることとする。実務訓練の場であるため、原則として業務報酬、交通費等の支給はない。受講にあたっては、事前に研修先について調べ、研修の目的を絞り込んでおくこと。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	建築士インターンシップB
学年	修士課程第1・2年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	6
担当教員	柏原信幸、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、◎平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	建築インターンシップBは、建築インターンシップAを履修した後に行う。すでに実務経験を積んだ後に履修するので、より高度な実務実習として位置づける。一級建築士事務所等で、設計図書の作成など建築設計の補助業務を行う。本学指導教員と指導担当建築士とで協議し、受講者に適した業務内容を設定する。 テーマ 受け入れ先の業務を優先する。様々なプロジェクトの中から、受講者の希望を尊重しながらテーマを決定する。
達成目標	実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/問題解決力を養う授業
授業計画	インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。 01 事前準備・受け入れ設計事務所の調査 02 建築実務概要および業務マネジメントとは 03 専門分野の実務(1)委託業務内容・コミュニケーション能力・企画能力 04 専門分野の実務(2)プロジェクト運営業務 05 専門分野の実務(3)様々な法令との関係・計画全体の進め方と設計実務 06 専門分野の実務(4)基本設計・実施設計・監理 07 実務経験 (1)意匠・構造・環境設備・造園 08 実務経験 (2)積算・工事契約・工事監理 09 実務経験 (3)建設現場 10 その他の特約業務 11 労働安全と衛生 12 総括
成績評価基準	受け入れ先事業所の指導担当建築士による実務訓練に対する評価と、学生が提出した実習報告書をもとに評価を行う。実習は複数の受け入れ先にわたっても構わない。単位認定には連続または分割して合計240時間(概ね6週間)程度の実習を要する。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	特になし
参考書・参考資料等	特になし
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	原則として、各自が研修希望先を探して受け入れの交渉を行い、了解を受けることとする。実務訓練の場であるため、原則として業務報酬、交通費等の支給はない。受講にあたっては、事前に研修先について調べ、研修の目的を絞り込んでおくこと。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	プロダクトデザイン研究
学年	修士課程第1学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	金石浩一、金澤孝和、金山正貴、菊池加代子、◎齋藤和彦、境野広志、鈴木均治、土田知也、眞壁 友、増田 譲
授業の概要及びテーマ	特別研究の助走期間として、専門領域に必要な知識やスキルを身につけるため、文献研究や調査・分析・制作などの基礎研究を実施し、特別研究の理論的な組み立てが実現できるような内容を個別に設定する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・修士で研究していくテーマを明確にし、概要をまとめること。 ・文献研究および調査・分析したものを文章・レポートにまとめること。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>指導教員とのゼミナール形式で行う。 但し、必要に応じ指導教員外の教員も参加する。</p> <p>01～10 文献研究 11～20 調査・分析 21～29 考察・まとめ 30 発表</p> <p>上記をガイドラインとし指導教員と計画を立てて進めること。 *10月下旬に領域内で中間発表を実施する。</p>
成績評価基準	<p>文献や調査・分析に基づいたレポート (60%) 研究テーマを明確にし、修士研究の概要をまとめること。 (40%) これらの内容を総合的に判断し評価する。</p>
出席・遅刻の基準	指導教員による
テキスト(教科書)	学生のテーマに合わせて指導教員が適宜指示する
参考書・参考資料等	学生のテーマに合わせて指導教員が適宜指示する
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	モノのデザインだけでなく、コト・体験といったモノを取り巻く様々な要素を取り入れ新しい発想につなげるよう、常にアンテナを張って、社会の動向を観察すること
実務経験を活かした授業	各領域では専門性の高い実務経験豊かな教員によって授業を行う。

科目名	視覚デザイン研究
学年	修士課程第1学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	阿部充夫、天野 誠、吉川賢一郎、金 ボンス、徳久達彦、◎長瀬公彦、ヨールグ ビューラ、平原 真、真壁 友、松本明彦、水川 毅、御法川哲郎、山田博行、山本 敦
授業の概要及びテーマ	視覚デザイン領域における専門分野の指導担当教員との連携を図り、研究活動を行う。 修士課程の基礎的研究として各自の計画に基づき、専門に関する理論について調査や整理・研究により各自のテーマやコンセプトを確かなものとして基本的なデザイン領域の制作を行う。また、社会との課題を見つけ、その問題解決について検討すること。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既往研究を整理し、自身の研究課題を構築することができる。 ・ 様々な社会の課題について整理し、解決策を見出すことができる。 ・ 課題について、客観性を持ちながら調査や分析を行い、検証・考察することができる。 ・ 自己の研究課題設定による研究成果を発表することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>指導教員とのゼミナール形式で行う。 但し、必要に応じ指導教員外の教員も参加する。</p> <p>01～10 文献研究 11～20 調査・分析 21～29 考察・まとめ 30 発表</p> <p>上記をガイドラインとし指導教員と計画を立てて進めること。 *10月下旬に領域内で中間発表を実施する。</p>
成績評価基準	<p>文献や調査・分析に基づいたレポート (60%) 研究テーマを明確にし、修士研究の概要をまとめること。 (40%) これらの内容を総合的に判断し評価する。</p>
出席・遅刻の基準	指導教員による
テキスト(教科書)	学生のテーマに合わせて指導教員が適宜指示する
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	修士課程においての自己のテーマ設定の方向性を定め、基礎的なことを再認識し、研究および創作活動に対してより自主性を持って臨むこと。
実務経験を活かした授業	グラフィック、広告、WEB、イラストレーション、ブランディング、映像、写真などそれぞれ実務経験を要する専門教員が担当

科目名	美術・工芸研究
学年	修士課程第1学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	遠藤良太郎、岡谷敦魚、菅野 靖、小林花子、小松佳代子、竹田進吾、◎中村和宏、長谷川克義、藪内公美、馬場省吾
授業の概要及びテーマ	美術・工芸領域における専門分野の指導担当教員との連携を図り、研究活動を行う。 修士課程の基礎的研究として各自の計画に基づき、専門に関する理論について調査や整理、それに伴う制作および研究によって各自のテーマやコンセプトを確かなものとする。また、各自の表現活動と社会との繋がりを探求する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既往研究を整理し、自身の研究課題を構築することができる。 ・ 自己の課題について、客観性を持ちながら調査や分析を行い、検証・考察することができる。 ・ 自己の研究課題設定による研究成果を発表することができる。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>授業内容・進捗の関係上、時間割通りの授業日程になるとは限らない。各指導担当教員の指示に従うこと。なお、1～15を前期、16～30を後期に行う予定である。 *10月下旬に領域内で中間発表を実施することもある。</p> <p>〈遠藤良太郎〉 01 概説、計画について 02~07 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究 08 中間報告会 09~14 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究 15 前期末報告会 16 計画確認、学外実習等 17~22 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究 23 中間報告会 24~29 計画行程確認、学外実習、作品制作、文献研究 30 後期末報告会</p> <p>〈岡谷敦魚〉 01 概要講義 / 研究計画作成 02~07 作品制作・文献研究 / ディスカッション 08 作品制作 / 研究発表 / 中間講評会 09~13 作品制作・文献研究 / ディスカッション 14 作品制作/仕上げ 15 研究発表/講評会 16 概要講義 / 研究計画作成 17~22 作品制作・文献研究 / ディスカッション 23 作品制作 / 研究発表 / 中間講評会 24~28 作品制作・文献研究 / ディスカッション 29 作品制作/仕上げ 30 研究発表/講評会</p> <p>〈菅野 靖〉 01 技法と表現の理解 02 各自の表現および計画をプレゼンテーション 03~07 計画に沿って実制作 08 研究報告1 09~14 計画に沿って実制作 15 研究報告2 16~18 技法および表現の研究 19 研究報告3 20~29 計画に沿って実制作 30 研究報告4</p> <p>〈小林花子〉 01 概要講義/テーマ、コンセプト決定/作品プランニング 02 作品プランニング(デッサン、エスキース作成)/ディスカッション 03 作品プレゼンテーション/発表計画/ディスカッション /活動計画書提出 04~07 作品制作 08 作品制作/中間報告 09~12 作品制作 13 作品制作 仕上げ</p>

	<p>14 作品制作 仕上げ/発表準備 15 活動報告/講評/研究報告書提出 16 概要講義/テーマ、コンセプト決定/作品プランニング 17 作品プランニング (デッサン、エスキース作成) /ディスカッション 18 作品プレゼンテーション/発表計画/ディスカッション /活動計画書提出 19~22 作品制作 23 作品制作/中間報告 24~27 作品制作 28 作品制作 仕上げ 29 作品制作 仕上げ/発表準備 30 活動報告/講評/研究報告書提出</p> <p>〈中村和宏〉 01 これまでの研究確認・問題抽出 ディスカッション 02 ガラス素材研究における講義 研究テーマ1の構築 (調査・調整) 03 研究テーマ1 (ストーリーボード) 発表 04~13 実制作 (中間報告・学外研究含む) 14 研究制作仕上げ 15 研究制作発表 / 講評 / 研究報告書提出 16 バックキャストイングからの問題及び課題の整理 17 ディスカッション/ 研究テーマ2の構築・確認・修正 18 研究テーマ2 (ストーリーボード) 発表 19~27 実制作 (中間報告・学外研究も含む) 28 ディスカッション/ 研究制作仕上げ 29 研究制作発表準備 30 研究制作プレゼンテーション / 研究報告書提出</p> <p>〈長谷川克義〉 01 ガイダンス・テーマ設定 02 金属工芸制作法 (計画から検討) 03~08 金属工芸制作法 (図面・原型制作など) 09~14 金属工芸制作法 (試作から本制作へ) 15 作品提出 中間講評 ディスカッション 16 テーマ確認 17~21 制作・研究 22 中間講評 ディスカッション 23~29 制作・研究 30 作品および研究成果提出 講評</p> <p>〈藪内公美〉 01 これまでの研究確認・研究内容ディスカッション 02 研究計画プレゼンテーション・文献研究① 03~07 鍛金技法研究・作品制作1 08 研究計画中間プレゼンテーション・文献研究② 09~14 鍛金技法研究・作品制作1 15 研究中間発表・作品提出・講評・研究中間報告書提出 16 研究計画プレゼンテーション・文献研究③ 17~21 鍛金技法研究・作品制作2 22 研究計画中間プレゼンテーション・文献研究④ 23~28 鍛金技法研究・作品制作2 29 研究成果発表発表 30 研究成果発表・作品提出・講評・研究報告書提出</p>
成績評価基準	研究姿勢 40%・成果の内容 60%。これらを総合的に判断し、指導担当教員が評価する。
出席・遅刻の基準	各研究室による。
テキスト (教科書)	指導教員が適宜指示する。
参考書・参考資料等	適宜指示および参考資料として授業時にプリントを無料で配付することがある。
用具	適宜指示する。
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	修士課程においての自己のテーマ設定から方向性を定め、基礎的なことを再認識し、創作活動および研究に対してより自主性を持って臨むこと。また、特別研究を踏まえて自己のテーマを再確認し、他分野に関しても意識を損なわず研究活動に邁進すること。そして、公募展出品や産学連携プロジェクト等へ積極的に参画すること。
実務経験を活かした授業	

科目名	建築・環境デザイン研究
学年	修士課程第1学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	柏原信幸、北 雄介、◎佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	基礎科目群、専門科目群で修得する理論、技術に基づき、建築・環境デザイン領域に係る各人の計画・目的に基づいた研究・制作を行う。 本研究は、修士課程研究の基礎研究の位置づけを持ち、課題の設定、分析と考察、論考の展開、発表の方法などの高度化を図る。 本大学院では全領域にてデザインプロセスを理論的に体系化したデザイン思考を修得することから、当該理論を基礎理論と捉え、建築・環境デザイン領域の専門性と掛け合わせ新たな価値の創造を念頭に置いた研究の礎とする。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既往研究を整理し、自己の挑戦するテーマの位置づけを明らかにする。 ・ 自己の研究課題を常に発見しようとする意識・外部観察の眼を持つ。 ・ 自己の課題の設定や調査・分析・考察につき、適宜第三者の立場に立ち、検証する姿勢を持つ。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/構想力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>修士課程2年間をかけて自己が設定するテーマについて行う研究の、前半1年分である。これまでの単独によるデザイン・設計の概念を乗り越え、建築家として実業務に直結する個性・専門性を持った個人の集合体としてデザイン・設計にあたるアプローチを図るため、常に客観化、構造化、共有化、認識化を念頭に研究に取り組む。修士課程1年次の2月に成果発表を行う。</p> <p>01~05 既往研究リサーチおよびテーマ設定 06~10 対象を観察し共感する「客観化」 11~15 問題の本質に焦点を当てて見極める「構造化」 16~20 ワークショップやプレストによって解決策を考える「共有化」、 21~29 具体的に表現する「認識化」 30 成果発表 *10月下旬に領域内で中間発表を実施する。</p>
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修者の研究姿勢及び研究実施プロセスの段どり・実施状況の的確性を重視する(60%) ・ 研究テーマの新規性及び成果の完成度(40%) <p>以上を総合的に判断し評価する。</p>
出席・遅刻の基準	指導教員による
テキスト(教科書)	受講生のテーマに合わせて指導教員が適宜指示する
参考書・参考資料等	受講生のテーマに合わせて指導教員が適宜指示する
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	従来の建築・環境デザイン領域のもっていた方法論、単独でのデザイン・設計を乗り越え、建築家に必要な集合体としての概念を取り入れようとする柔軟性を持つこと。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	イノベーションデザイン研究
学年	修士課程第1学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	演習
単位数	4
担当教員	◎板垣順平、岡谷敦魚、金山正貴、吉川賢一郎、齋藤和彦、土田知也、津村泰範、中村和宏、森本康平、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	デザインシンキングやイノベーションのプロセスを学ぶとともに、国内外において、自身の研究テーマに関するプロジェクトや取り組みを企画・実施し、グラウンデッドセオリーやアクションリサーチの手法をもとに調査研究を行います。それらの結果を踏まえて特別研究へと繋げます。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の研究テーマに資する取り組みやプロジェクトを実施しながら具体的な研究課題や研究手法を設定する。 ・デザインシンキングやイノベーションの創出原理についての理論を習得する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	<p>01～04 研究テーマに関連させながら自身がデザインしたいことや取り組んでみたいことを考える。 05～08 取り組んでみたいことを実践することによって得られる知見や起こり得る影響を考える。 09～12 先行研究を踏まえながら自身のデザインや取り組みを実施する意義を考えプロセスを組み立てる。 13～16 デザインや取り組みに必要なヒト・モノ・コト・テク・カネを考えてプロジェクトを実施する。 17～20 プロジェクトの結果を分析し改善すべき点や新たに必要な要素を考える。 21～24 分析結果をもとにデザインや取り組み内容の見直しを図り改めてプロジェクトを実施する。 25～30 これまでの結果やプロセスをまとめながらデザインや取り組みの意義を提言する。</p> <p>*10月下旬に領域内で中間発表を実施する。</p>
成績評価基準	定期的実施するゼミやその他研究活動での成果報告 100点
出席・遅刻の基準	指導教員による
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	学内での研究発表に加えて、日本デザイン学会の第3支部研究発表会や日本デザイン学会春季研究発表大会での発表、デザイン学会が発行する論文集「デザイン学研究」への論文投稿のいずれかにチャレンジすることが望ましい。
実務経験を活かし た授業	

長岡造形大学 シラバス 2022

科目名	特別研究
学年	修士課程第2学年
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	10
担当教員	研究指導教員
授業の概要及びテーマ	個人で、特定の計画・目的に基づいた研究もしくは制作を行います。特別研究を通じて、課題の設定、分析と考察、論考の展開、発表の方法、社会への成果の還元などの高度化を図り、「造形理論」の構築あるいは「デザイン学」の確立に向けた研究、イノベーション創生を行うことがこの授業の目的です。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己の研究課題を常に発見しようとする意識・外部観察の眼を持つ。 ● 自身の課題の設定や調査・分析・考察につき、適宜第三者の立場に立ち、検証する姿勢を持つ。 ● 「造形理論」や「デザイン学」の確立や、「イノベーション創出」に向けた研究の糸口を常に考える意識を醸成する。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	修士1年間をかけて、自己が設定するテーマをベースに修士2年時の1年間の研究を行います。年度末に最終的な特別研究発表に臨みます。修了にはこの発表が不可欠となっています。制作系でも論文作成は必須となりますので、論文指導担当教員とも密な指導を受けることになります。修士論文または修士制作の審査は、主査1人・副査2人の構成により、本学の「大学院学位規程」に即して実施します。
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 受講者の研究姿勢及び研究実施プロセスの段どり・実施状況の的確性を重視します…6割程度 ● 研究テーマの新鮮度及び成果の完成度…4割程度 ● 研究には論文提出が必須 以上を総合判断します。なお、学位審査は別途定める「審査基準」に従い評価します。(大学院履修ガイド参照)
出席・遅刻の基準	指導教員による
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	この研究は、修士課程の研究生生活の基軸となるものです。この研究を自己の確立につなげられるよう努力してください。
実務経験を活かした授業	

長岡造形大学 シラバス 2022

科目名	建築士インターンシップC
学年	修士課程第1・2学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	4
担当教員	柏原信幸、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、◎平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	実務経験豊富で一級建築士の資格を有する本学教員が実施する具体的プロジェクトを課題とし、設計・監理の実務を補佐することにより、建築設計における計画から実現にいたる実践的な知識と技術を習得する。 テーマ 建築設計に関する実務実習（テーマは各学生が指導教員と相談して設定）とする。主に住宅など、規模の小さいプロジェクトを対象とし、プロジェクトの進行を体験する。
達成目標	実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/問題解決力を養う授業
授業計画	インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。 01 リサーチおよび企画立案 02 リサーチおよび企画立案 03 リサーチおよび企画立案 04 プランニングおよび構造チェック 05 プランニングおよび構造チェック 06 中間発表 07 法令チェックやコスト計算 08 法令チェックやコスト計算 09 法令チェックやコスト計算 10 法令チェックやコスト計算 11 プレゼンテーション資料および模型制作 12 プレゼンテーション資料および模型制作 13 プレゼンテーション資料および模型制作 14 プレゼンテーション資料および模型制作 15 発表
成績評価基準	指導に当たる教員が、実務訓練に関する評価と学生が提出した実習報告書・レポートをもとに評価を行う。単位認定には合計160時間（概ね4週間）程度の実習を要する。実習は複数のプロジェクトにわたっても構わない。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	特になし
参考書・参考資料等	特になし
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	原則として、各自が研修指導者に交渉し、了承を受けることとする。受講にあたり、研修の目的を絞り込んでおくこと。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	建築士インターンシップD
学年	修士課程第1・2学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	4
担当教員	柏原信幸、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、◎平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	実務経験豊富で一級建築士の資格を有する本学教員が実施する具体的プロジェクトを課題とし、設計・監理の実務を補佐することにより、建築設計における計画から実現にいたる実践的な知識と技術を習得する。 テーマ 建築設計に関する実務実習（テーマは各学生が指導教員と相談して設定）とする。公共施設や集合住宅など、規模の大きいプロジェクトを対象とし、プロジェクトの進行を体験する。
達成目標	実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連	創造力／問題解決力を養う授業
授業計画	インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。 01 リサーチおよび企画立案 02 リサーチおよび企画立案 03 リサーチおよび企画立案 04 プランニングおよび構造チェック 05 プランニングおよび構造チェック 06 中間発表 07 法令チェックやコスト計算 08 法令チェックやコスト計算 09 法令チェックやコスト計算 10 法令チェックやコスト計算 11 プレゼンテーション資料および模型制作 12 プレゼンテーション資料および模型制作 13 プレゼンテーション資料および模型制作 14 プレゼンテーション資料および模型制作 15 発表
成績評価基準	指導に当たる教員が、実務訓練に関する評価と学生が提出した実習報告書・レポートをもとに評価を行う。単位認定には合計160時間（概ね4週間）程度の実習を要する。実習は複数のプロジェクトにわたっても構わない。
出席・遅刻の基準	
テキスト（教科書）	特になし
参考書・参考資料等	特になし
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	原則として、各自が研修指導者に交渉し、了承を受けることとする。受講にあたり、研修の目的を絞り込んでおくこと。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	建築士インターンシップE
学年	修士課程第1・2学年
開講期	通年
必修/選択	選択
授業形態	実習
単位数	4
担当教員	柏原信幸、北 雄介、佐藤淳哉、白鳥洋子、菅原 浩、津村泰範、羽原康成、◎平山育男、福本 壘、森 望、山下秀之、与那嶺仁志、渡辺誠介
授業の概要及びテーマ	実務経験豊富で一級建築士の資格を有する本学教員が実施する具体的プロジェクトを課題とし、設計・監理の実務を補佐することにより、建築設計における計画から実現にいたる実践的な知識と技術を習得する。 テーマ 地域計画などに関する実務実習（テーマは各学生が指導教員と相談して設定）とする。公園や都市開発および文化財の保存・活用に関するテーマで、地域計画・緑地計画などのプロジェクトや文化財系の物件を対象とし、プロジェクトの進捗を体験する。
達成目標	実務的な経験を積むことにより、社会的責任が伴う建築設計業務に必要な生きた知識や技術、職業倫理観を身につける。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/問題解決力を養う授業
授業計画	インターンシップ開始に先立ち、各学生がインターンシップ計画書を作成し、本学担当教員の確認を受ける。インターンシップ終了後は実習報告書を作成し、担当教員の確認を受ける。 01 リサーチおよび企画立案 02 リサーチおよび企画立案 03 リサーチおよび企画立案 04 プランニングおよび構造チェック 05 プランニングおよび構造チェック 06 中間発表 07 法令チェックやコスト計算 08 法令チェックやコスト計算 09 法令チェックやコスト計算 10 法令チェックやコスト計算 11 プレゼンテーション資料および模型制作 12 プレゼンテーション資料および模型制作 13 プレゼンテーション資料および模型制作 14 プレゼンテーション資料および模型制作 15 発表
成績評価基準	指導に当たる教員が、実務訓練に関する評価と学生が提出した実習報告書・レポートをもとに評価を行う。単位認定には合計160時間(概ね4週間)程度の実習を要する。実習は複数のプロジェクトにわたっても構わない。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	特になし
参考書・参考資料等	特になし
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	原則として、各自が研修指導者に交渉し、了承を受けることとする。受講にあたり、研修の目的を絞り込んでおくこと。
実務経験を活かした授業	各教員が実務に則った指導を行う

科目名	特別プロジェクト研究演習
学年	博士（後期）課程第1・2・3学年
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	演習
単位数	2
担当教員	研究指導教員、研究指導補助教員
授業の概要及びテーマ	特別プロジェクト演習は、広く実社会の仕事に参画して社会の実際を知り、そこから個人の研究に新たな光を見出すことを目指しています。この研究は、分野の異なる複数教員による指導または複数領域の学生により、横断的におこなうことを原則とします。この演習の一環として社会が求めるイノベーションの種を見つけるトライ＆エラーを実践する姿勢を身に付けます
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト企画書/構想書の素案作成ができるようになる。 ● プロジェクト予算・執行計画案作成にあたって、意見を述べ、素案を作成することができるようになる。 ● 複数造形領域の教員及び学生の考え方/意見を徴収・整理できるようになる。 ● 必要な調査手法・手順を体得する。 ● プロジェクト報告の手法・手順を体得する。 ● プロジェクト報告を公開の場で行う。
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	担当教員と学生との相談、および外部からの依頼等により、授業内容を決定します。 Problem Based LearningまたはProject Based Learningのスタイルで作業を進めます。 授業の終了時には、担当教員を通してイノベティブな研究の成果をまとめた報告書を研究科長に提出することを義務付けます。報告書は学内に公表します。
成績評価基準	本演習のようなPBLでは、最終成果よりも参加プロセス、失敗や成功など体験から生まれる学習効果を重視する。そのため、これらのプロセスを研究ノート等に記述・記録し、これを適宜振り返り、参加者本人が学習効果を報告する事を評価の基本とする。
出席・遅刻の基準	
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	実社会において人と接し、議論をし、仕事を学ぶことに喜びを感じるようになって欲しいと思います。自分が共同作業のなかでしっかりと貢献できることを意識し、行動してください。また地域のフィールドに出た場合は、住人との接点が多く持たれます。人々との交流を楽しみと感じられる時間として過ごせるような精神を培う機会となることを願っています。
実務経験を活かした授業	

科目名	造形理論
学年	博士（後期）課程第1・2・3学年
開講期	通年
必修/選択	必修
授業形態	実習
単位数	8
担当教員	研究指導教員、研究指導補助教員
授業の概要及びテーマ	博士（後期）課程は「造形理論」がテーマです。この「造形理論」は、「デザイン学」の確立をめざした基礎研究とも言えます。デザイン学は、計画学、設計学、あるいは計画哲学、設計哲学、創作方法理論学を包含し、より包括的、抽象的な体系を構成しています。その体系付けは、自然や生態系などを含む生活環境を総合的に捉える世界観や歴史観、社会と深く関わることによる時代や地域における美意識や価値観に対する理解を基礎とし、個人の思索と研究領域としてのフィールドに密着することにより達成されるものです。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来にない研究テーマの探索法を体得する ● 長期かつ膨大な研究活動の工程の構想力、段取りや管理能力を会得する。 ● 事実関係や研究資料の正当性を常に検証する態度を獲得する。 ● 論文作成等における他者による引用・参考文献の峻別や明示を的確に行う姿勢を習性化する。 ● イノベーションに資する知見を会得する
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連	創造力/統合力/問題解決力を養う授業
授業計画	入学から修了までの所定の年限（3年間以上を基本とする）をかけ、研究成果を博士論文としてまとめるための研究を行います（博士論文は、別途「造形理論研究指導」を受けてまとめます）。
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 受講者の研究姿勢及び研究プロセスの段取りと実務的的確性を4割程度 ● 研究成果の完成度を6割程度 以上を総合評価します。なお、学位審査は別途定める「審査基準」に従い評価します。（大学院履修ガイド参照）
出席・遅刻の基準	指導教員による
テキスト(教科書)	
参考書・参考資料等	
用具	
履修制限等	
履修希望者への要望・事前準備	前準備 周辺領域の知見を深めつつ、自分の進む領域に幅と深さを獲得し、博士論文の完成をめざしてください。履修登録は3年次のみ行います。
実務経験を活かした授業	